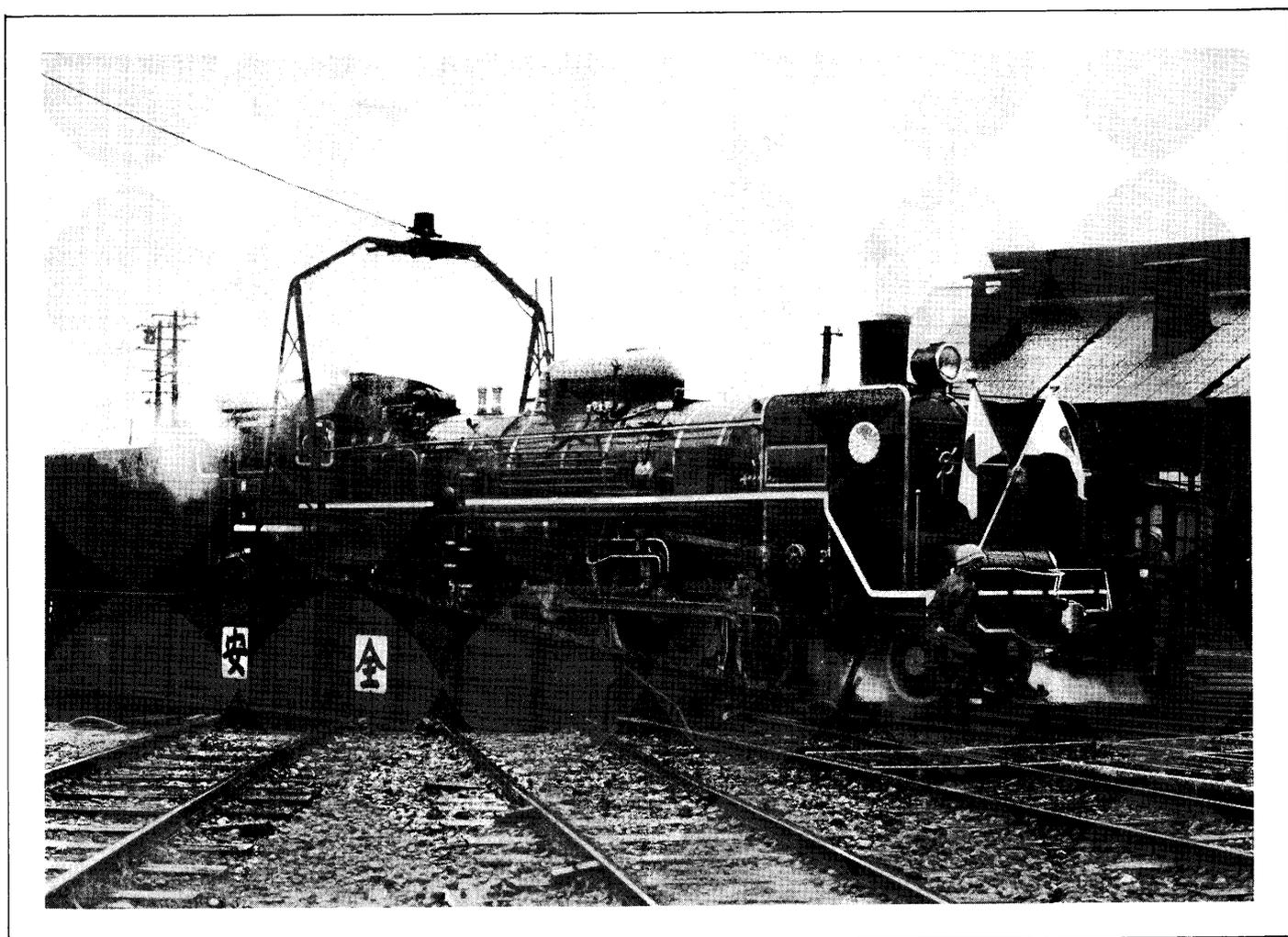


# 臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成10年度（第41回）支部大会号





# 第41回 東京支部大会プログラム

平成10年6月6日(土) 午後2時  
会場・品川プリンスホテル「苗場」

## ◎準備

場内指令(段取・渉外).....	伊藤 勇五、篠川 恒夫、大橋 貞夫
案内(総合).....	武藤 三郎、関 孝世、鈴木 節子 小島 典子、真水 道子
受付(総合・来賓).....	斉藤 和男、岡本 和子、笠原 静夫
(旧中・旧女).....	芳賀 健一、金子 鶴男、佐藤 玲子 小林 早月、向山 律子
(高校 男子).....	新井 康夫、山崎 輝雄、石黒 四郎 高岡 英治
(高校 女子).....	山西愈佐子、木村 孝子、中島 和子 渡辺 厚子
(景品受付及び会報等配布).....	渡辺 八郎、沢出 赳允、山下由紀子 近藤 燦子、徳永 道子
会場設営.....	鈴木多喜男、広田 達衛、佐久間英輔
司会.....	青木 猛、深見 洋子

## ◎第一部 総会

支部長挨拶.....	佐伯 益一
来賓紹介.....	伊藤 勇五
同窓会長挨拶.....	茂野 敏郎
学校長挨拶.....	内田 力
平成9年度経過及び会計報告.....	鶴巻 浩
会計監査報告.....	塚田 勝
役員改選	
新支部長挨拶	

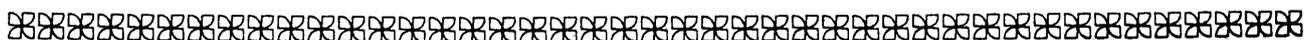
## ◎第二部 懇親会

合唱.....「旧校歌=塵の巻を遠ざけて」.....	田代 信雄
乾杯.....	出席高齢者の中から
フラダンス.....	マーパナの皆さん
越後民謡.....	東京新潟県人会同好会の皆さん
抽選会.....	篠川 恒夫、佐久間英輔、大橋 貞夫 中島 和子、近藤 燦子、徳永 道子
校歌・応援歌ほか.....	全員
手締め.....	支部長
万歳三唱.....	校長
閉会挨拶.....	八木又一郎

(表紙写真について)

昭和47年5月、全国植樹祭に昭和天皇が新潟県黒川町胎内平に行幸の際、新津一村上間を走行したお召し列車を牽引した機関車C57型が新津機関区転車台に入線した折撮影したもの。(撮影日昭和47年5月20日)

撮影者 新津機関区OB 石山 誠氏(新津市在住) 提供 大原 良雄氏(旧中26卒 新津市在住)



「第41回 東京支部大会によせて」  
このままでは日本語が減ぶ



東京支部長 佐伯 益一

母校「松城」編集部から原稿を依頼されて この題名で今春送稿したが 何しろ日の余裕もなく字数も限られていたので充分 意を尽くせなかつたきらいがある。そこで改めて加筆修正の上、再度この会報に掲載して頂くことになった。ご了承願いたい。

私たちの年代で戦後、始めて耳にした米軍語はGHQ（連合軍総司令部）や MP（憲兵）という言葉である。マッカーサーの占領政策によって日本古来の伝統ある歴史、風習は総て否定され、新たな施策が強引に押しつけられた。特に教育問題については誠にひどいものであった。今ここでそれを論じるつもりはないが（いずれ書きたいと思っている）私が訴えたいのは戦後53年、あまりにも荒廃した日本語、目茶苦茶な和製英語、略語、難解語、即ち横文字の氾濫についてである。

政治家を始めテレビ、マスコミでも好んで横文字を使っているが 例えばマスコミという言葉にしても 果して一般の人はその言葉の語源と意味を本当に知っているのかと疑いたくもなる。私が無知かもしれぬがその綴りさえ書けぬのではないかとも思う。

便所 手洗いにしてもそうだ ご丁寧に「お」をつけて おトイレと呼ぶ。こんな言葉があるものか。前に会社の若い者に PRを正しく言ってみると言ったら「PRはピーアールです」と平然としていた。そこで詳しく説明してやったら ようやく理解した。映画の題名、会社の社名など英語の乱用で（敢えて乱用という）意味内容がさっぱり分からない。一番分からないのは写真機とパソコンの広告説明文である いくら読んでも分からない。だから私は買わない。いや求められないのだ。「JR」にしてもそうだ 直訳すれば「日本鉄道」正式には「日本旅客鉄道株式会社」である。これは外人にも理解出来ないらしい。ある日、地下鉄に乗っていたとき車内広告を眺め 興味が覚えて何処か横文字を使っていない広告はないかと探したが何れにも外来語、和製英語が入っていた。しかし後日 たった一つだけが発見した。それは 新しく出来た清酒の広告であった。酒好きの私は とたんに嬉しくなった。

と言うわけで 我々は日本語をもっと大切に使うことを心がけるべきであると考え。然も正しい日本語を。日本語は日本人の言葉である。むやみやたらに変造するものではない。古来からの日本語が次第に減びてゆくのを私は心配しているのである。やたらに訳も分からぬ外来語を使うなど言いたいのである。

私が今までに書いた文章で横文字が殆ど使われていないことに お気づきの方も多くも居られると思う。

それで充分 用が足りると思っているからである。

ついでに申し上げるならば 私は今の文部省の常用漢字の制定には反対の立場をとる者である。

どんなに難しい漢字であっても その文字から意味を察することが出来る。辞書をひきながら文章を書くのも又楽しいことではないか。ら致（拉致）、警ら（警邏）では分らないという次第。

最後になったが、最近読んだ雑誌（産経新聞社発行、「正論」）に次のような文章が載っていた。

明治五年 福沢諭吉が著作の「学問のすゝめ」の一節で“人物論”として次のようなことを書いている。

人生においては人望を得ることが大事だ。と述べ、では どうしたら人望を得ることが出来るかと問う。まずひとつは 言葉を学び 特に会話を巧みにすることだ。若い者が 日本語は不便だから英語を使おうなどというが これは取るに足らぬ馬鹿である。

この若者は日本に生れて いまだに十分に日本語を使ったことがないのだろう。「大事なことは 何はさておき今の日本人は今の日本語を巧みに用いて 弁舌の上達せんことを勉むべきである」と述べている。

更に彼はもう一つ 「顔色、容貌をよくせよ」と述べている。人の顔色は家の入り口のようなもので 門戸を開いて寄りつきをよくしておかないと誰も近寄らないという。容貌は決して生まれつき決まっているものではなく これも「人の心身の動き」だから いくらでも向上することが出来る。心身の動きによって顔色、容貌をよくすることこそ徳義の一条なのである。こうした心掛けによって 社交（人間交際）に努めることこそが重要なのである。と。

今をさる はるか百二十数年前 明治五年に一万円札の福沢諭吉先生は 今日事態を予測されたか すでにその時期に喝破していたのである。

我が意を得たりと感動を覚えたので ぜひ紹介しておきたいと思った。

さて 松高同窓会東京支部第41回大会を 6月6日品川プリンスホテルで開催する運びとなったが 例年の如く多くの同窓が集まり盛大裡に終わることを期待しながらも 何か一抹の不安を拭いきれない。

会員の高齢化と若い同窓の未入会である。高齢化は仕方ないとしても 今後のためには なんとでも若い会員の増加を図るべきであり、然るべき良い知恵を各位にお貸し願いたいと思っている。見学行事等を企画し教養を高めるのも一案であろう。前に実施した国会、総理官邸の見学は誠に好評であった。独創的な考え、あり方をどんどん開発して行くべきと思う。ご協力をお願い致したい。母校の発展と会員各位の益々のご活躍 ご健在を心から祈念し、会報第25発行号のご挨拶に代える。



## 就 任 ご 挨拶

新潟県立村松高等学校  
学校長 内田 力



このたび、「旧制村松高等学校」創立以来87年の歴史と伝統を刻む、村松高等学校に着任いたしました。村松町を始めとする地域のみなさんから、本校に寄せられる大きな期待と温かい心遣いや、各界各層の要職や、各地域社会における指導的立場でご活躍の、同窓生の皆さんの様子をお伺いし、その重責を肝に銘じているところであります。

創立記念日の4月25日を迎える前日、全校集会の機会を通して、本校の輝かしい歴史と伝統を築かれた同窓の方々の青春の思いを話しながら、より良い学校づくりに向け、生徒ともども、努力することを誓ったところでもあります。

同窓の皆様方には、日ごろ、母校に寄せられる熱い思いとともに、温かいご理解と多大なご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。

先日の地元同窓会では、大変お忙しい中にも拘らず、茂野会長さん始め、遠方から佐伯東京支部長さんほか多数の皆様方からご出席を賜り、盛大な歓迎会を催していただき、感激の極みでもございました。

学校では、10名の転入職員を迎え、新しい年度が発したばかりであります。簡単にその近況をご報告いたします。

本校の立て直しを図る取組の一つとして、平成3年度から実施して参りました「進学クラス」の設置は、地域の皆さんからも理解されるようになり、その成果を着実に上昇させております。平成9年度の進学状況は、新潟大学を始め4年制大学進学者18名、短期大学19名、計37名の進学者を卒業させることが出来、近年の状況からすると、目を見張るばかりの成果と思われれます。

このほか、専門学校等進学者は67名、また就職者の状況も、4名の地方公務員を始め、ほとんどの生徒が県内に就職することができました。

職員間でも、この成果に大きな自信を持ち、さらに一層、進路指導の充実に努めることにし、生徒には、なるべく早い時期に目標を決定し、学習への意欲がますます高められるよう指導することとしております。

また、生徒の部活動についても、伝統の陸上競技部を

先頭に、野球部、写真部など、今年度は更に、より良い成績を収め素晴らしい活動報告ができますよう、連日遅くまで全てのクラブで、それぞれの部活動に励んでいるところでもあります。

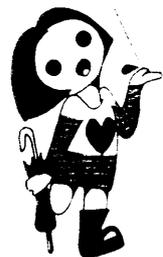
しかしながら、一方では、全国的に高校入学生徒の減少期を迎え、国や県段階でも、様々な教育改革が検討されている現状の中で、本校の進むべき方向、果たす役割について、早急に検討することが必要と考えられます。

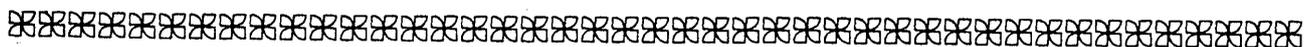
本校でも、これらの状況を受け「今後の本校の進むべき方向」を検討する『委員会』を設置し、特色ある学校づくりや魅力ある学校づくりに向けた取組ができるよう、詳細にわたる現状分析から、諸事業等を見直し、具体的な事業の策定や実施ができるよう検討することにしました。

同窓の方々からも、建設的なご意見や、ご要望を寄せて戴き、その中で十分検討していきたいとも考えております。どうぞ、何なりと学校に寄せて戴ければ幸いです。

また、6月には、東京支部の総会が開催されるとお聞きしております。故郷への深い思いに加え、母校に寄せる温かなご配慮やご指導を戴きながら、教職員一丸となって、村松高校の発展と前進のため、取り組んで行く所存であります。

終りになりましたが、前任の吉川校長先生に引き続き変わらぬご厚誼をお願い申し上げますとともに、村松高校同窓会東京支部の皆様、ますますのご健勝とご発展を祈念し、新任のご挨拶といたします。





## 大変お世話になりました

前・村松高校校長 吉川 益男

村松高等学校同窓会東京支部の皆様お元気でいらっしゃいますか。東京支部大会が例年のように盛大に行なわれている様子を思い浮かべながら、この原稿を書いております。私は、このたび定年により三月三十一日をもって退職いたしました。皆様の母校には三か年間勤務させて頂きました。この間、東京支部をはじめ地元村松の同窓会の皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。特に四月二十四日に行なわれました、地元の同窓会による歓送迎会には、東京支部より支部長の佐伯益一様がお見えになりご挨拶を賜り、その上、素晴らしいネクタイピンを頂きました。誠にありがたく厚く御礼申しあげます。小生しばらくは晴耕雨読の生活で？充電をし、いずれ地元新津のために出来ることがあればお返しをしたいと考えております。

さて、自由な時間があるということは実に素晴らしいことでありまして、四月中は好きな山菜とりに出かけてばかりおりました。今年の新潟の四月は、晴天の日が続いたため山菜は例年に比べて十日は早く、しかも各地で一斉に出てきましたので、てんてこ舞いの忙しさでありました・・・？。皆様の郷里、村松の山へも何度も行きました。杉川、川内、戸倉が中心であります。ゼンマイは後の処理が大変ですので取りませんが、フキノトウ、ワラビ、コシアブラ（地元では、山おがらと言います）マタタビの葉、山椒の葉、木の芽（アケビのつる）、竹の子（知人の竹林で）、シオデなどが中心で地元以外では、長岡の八方台山、新発田の奥の赤谷や菅谷、山北の野や山であります。来年再び山の幸を頂くため十分心して摘んできます。家内と二人切りの生活ですから、収穫物は娘夫婦や近所、親戚、知人に配って迷惑がらされております。五月には、南魚沼郡臨沢町清水（巻機山の麓の集落）にある山小屋（小生達のグループが持っている山小屋）の周辺に山菜を取りにまいります。誠に忙しく？過ごしているわけであります。

この間に低い山にハイキングに出かけます。皆様の地元の雷山、権現山はまだ登ったことがありません。いろいろ調べてみたのですが、雷山は殆ど道がなくなってしまったようで、地元の方に聞いても、この道を行けば良いと思うが最近殆ど登る人がいないので、道があるかどうかと言う返事が多く返ってきます。



永谷寺の山門の横からの道はもうありません。登れるとしたら夏針側からのようであります。素晴らしい伝説を持った両山を訪れる人がいなくなったことに淋しさを感じています。特に、年配の皆様は学生時代に行軍等で雷山には何度も登ったことであらましよう。時の流れを痛感いたします。

最近、山を愛したわる人が少なくなってしまいました。山歩きが好きで山菜料理が好きな人のために宿を紹介します。先程触れました山小屋の同人に、巻機山の麓で民宿を営んでいる、小野塚忠男氏がおります。氏は国鉄に勤務したことがあります（蓬峠の変電所勤務）が根っからの猟師で、巻機山の自然を守るため巻機山のリゾート作り一人に反対した人です。彼の生きざまを書いた「ひとりぼっちの反乱」（豊田和弘著）の中で氏は山の自然や熊鷹について多く語っています。この小野塚忠男氏が経営する民宿「雲天」の春・秋の山菜料理が実に素晴らしいのです。宿は、豪農の家を移転したもので五十人は泊まれます。囲炉裏を囲んで談笑したり、近くの山を歩いたり、巻機山へ登ったりと色々な楽しみ方があります。施設設備は新しく気持ち良く過ごせます。山と溪谷社の本で紹介されましたし、県内では時々、父ちゃんや母ちゃんがテレビに出ますから、ご存じの方もおられると思います。この民宿は、東京から関越高速道で日帰りが可能ですから、山菜料理のお好きな方は是非一度行かれてみてはと思います。（予約が必要です）

自由の身になった途端、遊びのことばかり書いてしまい、誠に場違いな文になってしまい恐縮です。

お世話になった東京支部の皆様益々のご発展とご健康を祈念いたしますとともに、新潟県立村松高等学校の更なる発展を祈って退職のご挨拶といたします。

三か年間、誠にありがとうございました。



## 平成9年度 東京支部の動き

平成9年

4月12日	編集会議	会報 N023	事務局	5名
〃	常任幹事会	大会準備	〃	9名
26日	編集会議	会報 N023	〃	6名
〃	常任幹事会	大会案内発送	〃	6名
〃	幹事会	大会役割説明会	ROX	19名
5月7日	印刷所	会報 N023	原稿渡し	
13日		〃	一次校正	
15日	印刷所	〃	〃 渡し	
24日		〃	二次校正	
26日	印刷所	〃	〃 渡し	
29日	朝日新聞「マリオン」に大会予告掲載			
6月5日	会報 N023	印刷出来上がり		
7日	第40回 東京支部大会	ROX	97名	
21日	会報 N023	発送	213通	事務局 5名
22日	故、中村倉吉(前事務局長)氏 三回忌法要 陽寿院			
7月5日	幹事会	大会反省会	副アンズ	26名
8月16日	同窓会本部総会	「明月」	棘薙り	3名
10月11日	常任幹事会	各部会役割案	事務局	11名
11月1日	編集会議	会報 N024	県人会館	6名
22日	〃	〃	〃	6名
26日	〃	〃	事務局	2名
12月3日	印刷所	〃	原稿渡し	
11日		〃	一次校正	
12日	印刷所	〃	〃 渡し	
19日	会報 N024	印刷出来上がり		
20日	会報 N024	発送	321通	事務局 6名

平成10年

3月14日 編集会議 会報 N025 戸田・和樹 8名



## ありがとうございました

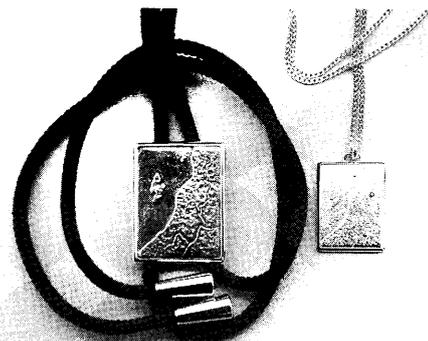
◎平成9年度会費納入の皆さん (その二) 敬称略  
 式場 俊三、渡辺 文男、松井 清平、三室 茂和  
 福田ジュン、(以上5名 15,000円)  
 計 男子 178名 女子 78名  
 合計 256名 768,000円

◎平成9年度寄付金納入の皆さん (その二) 敬称略  
 20,000円 田中 正往(五泉安勝寺)  
 7,000円 式場 俊三  
 5,000円 田中 正往(五泉安勝寺)  
 5,000円 五十嵐喜作(新潟)  
 2,000円 木村 貞一(新潟)  
 2,000円 松井 清平  
 計 6名 41,000円  
 計 男子 延54名 女子 延17名  
 合計 延71名 245,500円

## ふるさとの誇りを胸に

東京鹿瀬会では自分の郷里を現わすループタイ及び女性用のペンダント(写真)を作成して広く会員や会員外の方にも頒布しております。新潟県の地図に出身地を示す位置に天然のルビーを嵌めこんだなかなか優雅な製品です。作者は鹿瀬町日出谷出身の美術工芸彫金家の渡部広次氏です。只今50個位販売しておりますが、好評なのでネクタイピンも作成中です。購入希望の方はお早めにお申し込みください。(純銀と同金メッキの二種類で価格は ループタイ 11,000円 紐は紺、茶、緑の三種類の純絹、お申込み時にご指定ください)ペンダント及びタイピンは各6,000円(純銀と同金メッキの二種類)注文は 佐伯支部長までハガキに、出身地種類 品名 個数その他必要事項記載の上お申し込みください。出来次第振込み用紙同封でお送りしますので、ご送金のほどお願い致します。

宛名 〒134-0087 江戸川区清新町1-1-2-503  
 電話03-3688-5824 東京鹿瀬会 佐伯 益一





## 平成9年度会計収支決算書

平成9年4月1日より平成10年3月31日まで

新潟県立村松高校同窓会東京支部

収入の部	(単位=円)	支出の部	(単位=円)
年会費	768,000	会議費	99,995
男子 178名 534,000		通信費	12,800
女子 78名 234,000		印刷費	250,345
寄付金	245,500	会報 NO.23 114,135	
男子 54名 207,000		会報 NO.24 127,155	
女子 17名 38,500		その他 9,055	
第40回 支部大会残金	62,800	送料	116,640
(会報 NO.24で既報)		会報 111,492	
小計	<u>1,076,300</u>	その他 5,148	
平成8年度 繰越金	1,141,792	会費払込手数料	12,910
受取り利息	1,826	本部同窓会参加祝儀	20,000
小計	<u>1,143,618</u>	弔慰費	10,000
計	2,219,918	備品費(住所印)	1,050
		新潟県人会報購入費	4,500
		雑費(写真、交通費)	11,739
		計	539,979
		平成10年度へ繰越し	1,679,939
		(内訳)	
		郵便貯金 1,610,775	
		支部長手持現金 31,097	
		事務局長〃 38,067	
合計	2,219,918	合計	2,219,918

上記の通り報告いたします。

平成10年4月15日

支部長	佐伯 益一	印
事務局	鶴巻 浩	印
経理	岡本 和子	印

上記の会計収支決算書は厳正監査の結果 適正であることを認めます。

平成10年4月18日

監事	芳賀 健一	印
監事	塚田 勝	印



## 新旧両校長の歓送迎会に出席して

支部長 佐伯 益一

去る4月24日午後5時半から村松町「木むら」で新旧お二人の校長先生の歓送迎会が開かれ、東京支部組織副委員長の伊藤勇五さんと共に出席して参りました。今まで3年間、母校に奉職された吉川益男先生は3月末で定年。新任の内田 力先生は西新発田高校からの転任で、併せて長年私達と親しんできた江口 昇先生（高3回卒）の送別、田中新教頭、西村新事務長の両先生の歓迎の宴も同時に開かれました。出席者は26名とお聞きしました。

茂野同窓会長の歓送迎の挨拶の後、両校長先生からは謝辞とそれこそ、その名のとおり力強い着任の挨拶があり、吉川先生にはお餞別等が贈られました。最後に私から、かねてからのお約束であった新潟県の地図に先生の出身地新津の位置に天然ルビーを嵌め込んだネクタイピンを東京支部からの記念品として贈呈いたしました。

吉川先生は大変喜んでくださりまして早速今までのと取り替えて着用してくれました。胸間に金色に輝くそのタイピンを見て私は本当に良かったなあと嬉しく思いました。後は懇親会に入りましたが何れも顔見知りの人達です。真に愉快な一刻を過ごすことができました。

ただ残念だったことは、杯の献酬が活潑で箸を持つ暇も無くせっかくの「木むら」の料理も茶わん蒸し一椀だけ頂くという事でした。後はお定りの二次会へと誘われ両校長先生と楽しく過ごさせていただきました。真にありがとうございました。

この少し前、伊藤さんと一緒に学校を訪問し、待って居られた内田新校長先生と一時間ばかりお話をする機会がありました。いろいろと話をしている内にも、お若いながらも（そう思ったのは私の齢のせいかも知れませんが）母校に対する並々ならぬ覇気と熱意を感じ取りました。大いに母校の発展、活躍を期待するところです。

次に、かねてから念願の図書室を見せて頂きました。これは毎年買い求める本が書棚いっぱいになり捨てるには勿体無いし古本屋には売りたいしと思案のちげく、いっそ学校へ寄贈したらと思いつき、生徒の読書の傾向を知りたいと思ったからです。司書の先生にも話を伺いました。大変参考になりました、先生方も賛同してくださいました。いずれ折を見て東京支部会員のご協力を得て図書寄贈の大運動を起こす気でおります。

話は前後いたしました。内田先生と懇談中、吉川先生がお見えになり話が益々面白くなってまいりましたが、支部会報にご寄稿文を頂くことを無理にお願いし会場に参じた次第であります。



茂野会長さん、現地同窓会の皆さん、学校の諸先生、良い機会を作って頂きました。重ねて御礼申し上げます。

### 東京新潟県人会館を利用しよう

会員の中で、10人か15人位で会議や打ち合わせ会を開きたいが、場所がなかなか確保できず困っておられるという方も多いと思います。

そういう時には、ぜひ新潟県人会館を思い出してください。私たちの幹事会の会議でも、よく此処を使わせてもらっております。営団地下鉄の銀座線・上野広小路駅から徒歩5分、千代田線・湯島駅からは近く1分のところにあります。職員はいつでも新潟県人で心暖かく応対してくれます。申込は電話で結構です。

楽しいことは、新潟県各地のいろいろな人との出会いがあることです。

場所は 台東区上野 1-13-6

電話は 03-3832-7619

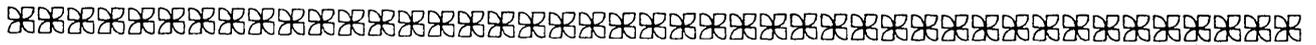
FAX 03-3832-7639

会議終了後、お酒も飲みます（持ち込み可）

料理弁当等は仕出しです。但し2～3日前から予約が必要（1,000円からあります）借室料は部屋の広さに応じて5千円・7千円・1万円（税別）とあります。

一度、電話してみたら如何でしょう。お早めにネ！

（佐伯）



## 雑談の中から

深見 洋子 (高7 常任幹事)

春まだ浅き日、戸田の岡本先輩邸での編集会議が終わると岡本さんが“お疲れさま”と、お酒と熱々のオデンを振る舞って下さった。

お酒は、剣菱の古酒で濃いオリーブ・グリーンの瓶色からして、お美味しそうで高級そうで皆んなの口から、“オオーッ”と歓声があがった。

そこで佐伯支部長が、剣菱のラベルの紋様について、確か“男とオナゴを表現している”という様な事を話し、一同新ためて“ラベル”に目を向け“なるほど”と納得顔になった。

聞いていた私は、何十年も前の若い頃、仕事の関係で「フランス語」を勉強するため、お茶の水にある“アテネフランセ”に通いだした時の事を思い出した。

フランス語の名詞には、男・女の別があり、それぞれ男性冠詞“Le”、女性冠詞“La”がつき、例えば“Le Soleil”太陽は(男)、“La lune”月(女)の如き形をとる。

物には総て男女の区別がある、という事は、あらゆる物、どれが男でどれが女か知らないと冠詞のつけようがない。それを全部覚えるなんて、何と厄介な!と、発音するだけでも日本人にとっては相当に恥ずかしいものがある。フランス語に手をつけた事は失敗だったかな、と思っていた矢先だけに大変な事になったと些かパニック状態に陥ってしまった。それでも何か基になる法則のようなものがある筈だとの思いが頭から離れなかった。

要するに、入れ物が女性名詞で、中に入れる物が男性名詞である。これが大まかな法則である。と一人悦にいったものだった。



昭和三二年秋、旧校舍をバックに、グラウンドにて(高十回、大橋貞夫)



話題のラベル

### 「艶笑小話的幼語解を中国酔いがたり」

(東方書店)

- 一触即罰(いちしょくそくばつ) : 女の尻に触ってピンタをはられること ・一触即発
- 気象腎尻(きしょうじんしつ) : お尻で気象予報の出来る人 ・起承転結
- 性交有毒(せいこうゆうどく) : 慎むべし ・晴耕雨読
- 校庭不儀(こうていふぎ) : 教師と生徒がよからぬ関係を結ぶこと ・皇帝溥儀
- 社会祝儀(しゃかいしゆぎ) : 賄賂が蔓延している社会 日本には利狂徒祝儀がある ・社会主義
- チン倒ビール(チンタウビール) : ビールを飲み過ぎると糖尿病になる ・青島啤酒
- 秘薬戦百姓(ひやくせんひやくしやう) : 中国ツアーで先を争って秘薬を求めぬる農協団体 ・百戦百勝
- 奨励キン(しょうれいきん) : 満たされない細君が、キンを励ます事 ・奨励金



## お便りの中から

小田 恕哉 (旧中16回)

◎前略 本日「臥龍が丘は緑なり」の平成十年新春号をご送付下され誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

良い年をお迎え下さるよう切に祈念して御礼の筆をおきます。 十二月三十一日 草々

武藤 三郎 (旧中26回) 支部常任理事

◎支部会報、平成十年新春号が届きまして早速に一読させて頂きましたが、担当のご苦勞を拝察し見事な内容を纏めておられる皆様には敬服するばかりです。

ところで、会報に残りがありましたら6〜7部を実費でお分け頂けませんでしょうか？

東京在住の同期で大会に出席しない連中と、大会への誘いをする田舎の同期等に送ってやりたいと考えております。出来たらでよろしいですがお願いいたします。

乱筆ながら取り急ぎ御礼申し上げます。お元気で…

1997年12月30日

亀嶋 謙 (旧中22回)

◎年の暮れ、待望の支部会報「臥龍が丘緑なり」平成十年新春号、正に受納いたし早速読んでおります。

さて、それについては、私共の同期の記事も載せて頂きましたので、幹事の二氏にお送り願いたいと存じます。

また、小生に、できればもう一部お送り頂ければ幸であります。全くご迷惑至極のお願い事ですが、何卒宜しくお願いいたします。 十二月三十日

近藤 力雄 (旧中22回)

◎東京支部会報・平成十年新春号をご惠送頂き誠に有り難く喜んでおります。以前は、故・中村倉吉君(同期)から何回となく本部同窓会の折、東京支部同窓会活動状況について承り亦、当時の支部会報等読ませて頂き松高を愛し発展させ度い願望が伝わり敬意を表します。

会のご活躍ご発展を祈念いたし、本年もよろしくお願ひ申し上げます。 平成十年一月十日

佐藤 栄策 (旧中26回) 村松町在住

◎東京支部会報24号をお送り頂き有り難う。

支部大会の報告や年度毎の同級会の様子それぞれにお便り欄等々内容豊富な記事を楽しく読ませて頂きました。会報を拝見すると懐かしい先輩諸氏のお名前が出ており昔の松中時代に還ったような気持ちにさせられます。

東京といえば思い出すのは、故・滝沢健次郎、斉藤宥(現・森山)と私の三人で松中を卒業して直ぐに上京して就職、青雲の志を抱きながらお互いに激励しあって苦学していた当時を思い浮かべ今なお感懐ひとしおのものがあります。在京の皆さんが在校時代に培われたご様子などが偲ばれて、衷心より祝福し敬意を捧げている一人であります。

同級会では思い出話に花が咲き宴も酣わとなり一段と気分の高潮した時、皆で声高らかに歌った校歌と応援歌は全く感激でした。歌い進むにつれて皆を昔に還し誇かな気持ちにさせてくれました。まさに我らは松城健男児でありました。塵の巻を遠ざけて云々とあるように、質実剛健を旨として生活をした中学時代、臥龍原頭幾星霜切磋琢磨の功を経て云々と歌って壮行会で選手を激励したりされたりして、母校の名誉ある伝統のため大いに健闘した各種競技大会の思い出などが走馬灯のように体の中を駆け巡り、校歌や応援歌に込められた若者への期待がやがて喜寿を迎えようとしている私どもの胸に迫って来たのは同級会に出席した全員の同じ思いだったに違いありません。在京の同窓諸氏もあの校門の松並木と校庭裏の赤山の松に囲まれた学び舎を折にふれて思い出し、懐旧の念に浸っておられることと思います。

老齡の私にとっては取り戻した健康と松中時代の青春の思い出が何よりの宝です。健全な心身をきたえてくれた「我が懐かしの母校よ永遠なれ」と心から叫びたい思いです。読後感の一端を添えて会報ご惠贈のお礼にします。東京支部の益々の発展を切にお祈りしつつ。

◎前略 さて、ご依頼の写真 本日入手いたしましたので早速お送り致します。二部送付しますが どちらでも良い方を採用してください。天皇陛下のお召列車の機関車ということで歴史的にも価値ある写真と思ひ選びました(これは我々の年代の戯言です?) 機関車の横の「菊のご紋章」私たち昔の者にはグットきますネ。会報が出来たら石山氏にも贈りたいので是非送ってください。

大原 良雄氏(旧中26新潟鉄道局OB)から  
武藤 三郎氏宛



古俣 泰雄 (旧中26回) 会津高田町在住

# お便りの中から

村松高校校長 内田 力

◎前略 先日は大変ありがとうございました。学校までお越しいただき、久し振りに楽しい一時を過ごさせていただき、心からお礼を申し上げます。

初めての出会いとはいえ、何かずっと以前からの知り合いにでも逢ったような不思議な感じでもありました。佐伯さんのお人柄と、昔の大人の人達の中の武士にも似た感覚を憶えたことと併せ、忘れられぬ人に出合った強い印象が今でもはっきりと思い起こされてまいります。

今後とも、宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。六月の品川でお逢い出来ること、今から楽しみにしております。

◎会報24号をお送り頂き有り難うございました。村松中学の思い出に浸れるのは、毎年開かれる同級会で新潟弁を聞いた時、しかし会津に戻って雑務に追われていると、何時の間にか薄らいでしまうのに今回は半年ぶりに想いを新たにすることが出来ました。

五泉・村松間を徒歩で五年間通学し若干の友人先輩と交歓できた外は、交際の範囲も狭かった私は、アンテナは低く情報も乏しくて自然と疎遠になっていました。

東京支部大会の出席者の名前を拝見しても思い出せる方は僅かですが、この小冊子は多岐にわたる内容で門外漢の私を微笑ましてくれたり、同感だと独り言を言わせて楽しませてくれました。読んでいるうちに大会の様子を覗いてみたくなったり、遠藤氏が吟ずる酔中歌を聞きたい思いに駆られました。

東京支部の皆さんを羨ましく思いながらも益々の発展を心からお祈りして御礼申し上げます。

## 寄赤山會春季例会

題 松

孤秀關山白嶺松  
春秋萬葉綠彌濃  
雄姿凜凜耐風雪  
幹欲凌雲正似龍

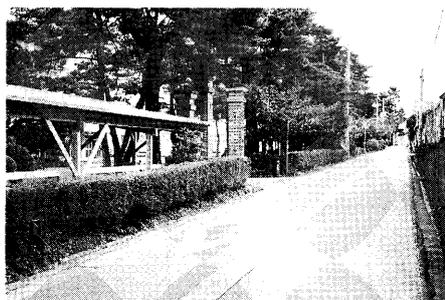
孤<sup>び</sup>秀<sup>ひ</sup>關<sup>かん</sup>山<sup>さん</sup>に秀<sup>ひ</sup>づ<sup>る</sup> 白<sup>はく</sup>嶺<sup>りやう</sup>の松<sup>しょう</sup>  
春<sup>はる</sup>秋<sup>あき</sup>万<sup>ま</sup>葉<sup>は</sup>緑<sup>きよ</sup> 弥<sup>い</sup>濃<sup>じゆう</sup>かなり  
雄<sup>ゆう</sup>姿<sup>し</sup>凜<sup>りん</sup>凜<sup>りん</sup> 風<sup>ふう</sup>雪<sup>せつ</sup>に耐<sup>たい</sup>え  
幹<sup>かん</sup>は雲<sup>うん</sup>を凌<sup>しの</sup>がんと浴<sup>よく</sup>して正<sup>ただ</sup>に龍<sup>りゆう</sup>に似<sup>に</sup>たり

賀先輩長壽

櫻花三月弄春芳  
今席成飲萬壽觴  
同塾相親赤山會  
祝歌交獻引杯長

桜<sup>さくら</sup>花<sup>はな</sup>三<sup>さん</sup>月<sup>げつ</sup> 春<sup>はる</sup>芳<sup>を</sup>弄<sup>ろう</sup>し  
今<sup>いま</sup>席<sup>せき</sup>成<sup>なる</sup> 飲<sup>の</sup>み 萬<sup>ま</sup>壽<sup>じゆう</sup>の觴<sup>しょう</sup>  
同<sup>どう</sup>塾<sup>じゆう</sup>相<sup>あい</sup>親<sup>しん</sup>しむ 赤<sup>せき</sup>山<sup>さん</sup>の會<sup>かい</sup>  
祝<sup>しゆ</sup>歌<sup>か</sup>交<sup>こう</sup>獻<sup>けん</sup>引<sup>ひ</sup>く 杯<sup>はい</sup>を引<sup>ひ</sup>くこと長<sup>なが</sup>し

平成戌寅 三月吉日



現在の村松高校前通り

### 漢詩、作詞の動機と経緯

◎ 四月四日の赤山會の四、五日前に赤山會事務局長・佐久間精一氏から電話をいただき「長寿の方々へのお祝いと旧制中学校の回想の一端を作詞して当日吟詠して貰いたい」と頼まれ、非才を省みず一生懸命作ったが、先輩の皆様には好評を博し喜んで頂いたのが何よりの嬉しさであった。

遠藤 順 (旧中33回)

遠藤 順 (旧中33回)



## 村松町・第15回「ふるさと講演会」を聞いて

沢出 越允 (高6回・支部常任幹事)

…はじめに…

村松町公民館で開催された「講演会」の講師に、同級生の村川英三君(高6回)を迎え、「近來稀に見る大盛況」と地元新聞「新潟朝日」も彼の熱弁を大きく報じた。

2月22日(日)、午後1時15分、会場へ着いたところ同級生も含め、およそ430人の町民が集まりすでに超満員であった。定刻より少し遅れ、1時40分すぎに開会した。講演に先立ち村松町公民館館長、相田孝助君(高6回)が開会の挨拶。その中で、村川君について「昔から、とにかく頭が良く勉強も出来たけど、よく遊び、他人を思いやる心あり、同級生の手本となった男だった。私は、おふくろから「醤油屋の三男坊を見習え」といつもハッパをかけられていた」と紹介された。

講演では、聴衆は村川医師の話に熱心に聞き入っていた。話の内容については、地元の新聞「新潟朝日」より要点を抜粋させていただき掲載したい。



…講師略歴…

村川氏は昭和10年、村松で生まれ29年に村松高等学校卒業、新潟大学理学部乙類に入学。31年に医学部へ再入学し、35年卒業した。インターンを経て同学部第二内科に入局し3年間、がんセンターへ出向。帰局後は血液の診療と研究に従事した。

43年には県立がんセンター新潟病院内科に赴任し、内科部長や研究部長を歴任した。平成4年には新潟県立中央病院の病院長(付属看護専門学校長を兼務)となり現在に至っている。

…講演内容…

演題は「村松発、21世紀行き～三男坊、豆ダンプ突っ走る～」という、彼を象徴している題名であった。まず、自分の生い立ちから話しはじめ「私の現在の人格や人となり、存在そのものの一番底辺にあるのが、この

故郷あるいは子供の時に皆さんに優しくして頂いたり、叱ってもらった経験が根本に関わっているのではないかと感じている」。

県立中央病院の所在地である上越市の紹介と、病院の新築について自分の考えを多少反映できた部分「室内にトイレ、洗面所を設置し、テレビを患者の見易い位置に取り付け、一部屋の最高人数を四名におさえた。そして建物を真南に面して建て、窓からは妙高山・黒姫山を望む絶景です。入院患者が少しでも家にいる時と同じような気分になるよう設計に気を配った」また、「駐車場は、1200台分確保したが、職員からは駐車場が何時も満車で困る、拡張して欲しい」との要望があったが「駐車時間を短くすれば、これで十分だと思ひ病院内の業務を円滑に(患者の待時間短縮)するよう命じた結果、患者一人当たりの待時間が約20分短縮した。それで駐車場にも空が出るようになった」と。「医者になり現場に出ているんなピンチにぶつかると。そんな時、やはり田舎育ちは強いです! しぶとい強靱さを持っている。でも一番大事なものは心の強さだと思う」「村松の人間は、新潟や東京あたりと比べると、遅れている、劣っているのではないかと怯えている。しかし、これを逆にいえばものすごい向上心、上昇思考と本質的にまったく同じものだと感じています」

終戦、村松大火、インターン時代、安保闘争、大学紛争などの思い出を話したあと、一番大事なことは「自分の信じた道を万難を排して進んでいく力」ではないかと思う。逆境にめげないで突き進む力は、村松のように自然が真近かにあり、しかも人情、風土がひしひしと感じられる社会こそ、本当の人間が育っていくのではないかと思います。

最後に、現在の医療制度とその課題に触れ、医療保険法の改正によって患者負担が倍近くになったことを憂慮する。「少なくとも、我々の子供・孫の世代に、3人で1人のお年寄りの年金・医療費を負わせるという事態だけは避けなければならない」と語り、講演を終えた。

…おわりに…

年配の人達に関心のある血液専門医師の講演という事で中高年の方が多かった。話の内容からして若い人達にも聞いて欲しかった。講演会のあと「村川君を囲む会」を同級生で催し、関谷正中君(英林寺住職・高6回)の乾杯で懇親会がはじまった。以上



## 亀嶋 謙さん（旧中22回）の第4冊目、出版本を読んで

武藤 三郎（旧中26回・支部常任幹事）

昨年12月下旬、前赤山会々長の亀嶋さんから一冊の本を頂戴した。それは喜寿を記念して、11月20日に初版を発行されたもので、亀嶋さんの著作出版物としては四冊目になる。書名は「日々・日々・又 日々・日々 去来」と名付けてあり、前書きには良寛の詩句を思い出して書名にしたと記してあった。

日々 日々 又 日々  
間に児童を伴って此の身を送る  
袖裏の毬子 両三箇  
無能 飽酔す太平の春

良寛師の心境には及びもつかないが、老境にたっして私はこの詩を何となく身近に感じたのであった云々と。

この本は平成4年から9年までの間に書き溜められた中から、特に選んで40点ほどの作品を一冊に纏められた博学多識と社会的交流の幅の広さには只々畏敬の念が湧くばかりである。

亀嶋さんは歴大な本を読んでおられるので、読書三昧として6点ほどの作品と旅行記や人物論、教育論もあれば宗教論もあるという多彩なものであるが、著者は私のように浅学非才な者でも、容易に理解出来るようにと平易な文章表現に徹しておられるので親しみやすく、楽しく読むことができる。

作品の中には、故人を偲ぶ追悼文が13点ほど載せてあるが、豊かな感懐と暖かな人間味の溢れる心情が如実に記されており、思わず“ほろり”とさせられたり、胸の熱くなる感動を覚える。

平成7年12月には「三井銀行を築いた異色の経営者たち」という著作を出版された。その時には盛大なお祝いとお披露目の会が催されて私もお招待に預かったが、その模様は会報23号の誌上を借りて概要を報告させて貰った。しかし、今回は非売品で限定出版されたものをお贈り頂く光栄に浴し、私の細やかな本棚には光彩を放つ貴重な一冊になった。

この度の本を読み終わって私は、人間としての生きかたを教えて貰ったような思いがしている。たまには私も本屋を覗くことはあるが、氾濫気味の大量の本の中から良書を選ぶのは容易なことではない。今回は亀嶋さんから教養を高めるには絶好の指南書を頂戴することができた。心から尊敬できる良き先輩に恵まれている自分を幸せに思っている。

同窓の皆さんにも是非とも一読の機会があるようにと願っている。その亀嶋さんは今年の12月には、めでたく「金婚式」を迎えられるそうである。満腹の祝意を表すとともに、ご夫妻の益々のご健康を祈ってやまない。

### 明石海峡大橋開通

4月5日、明石海峡大橋が開通した。四国と本州を結ぶ三橋のうち、関西への最短ルートで大きな期待を寄せられていた。1985年に、徳島～淡路間の大鳴門橋が開通しており、淡路～神戸間の今回の開通によって、四国から関西方面への時間が大幅に短縮された。

大阪～徳島間・2時間30分、神戸～徳島間・1時間40分。明石海峡大橋は「つり橋」で主塔間の長さは、1991メートルで世界最長の「つり橋」。工事期間は10年かかり、海底や工事区間の調査開始からは、実に39年の長い歳月を要した。



村松公園（1998.4.11写す）

# 花とみどりと石油の里・新津

(1998年3月28日、朝日新聞夕刊より)

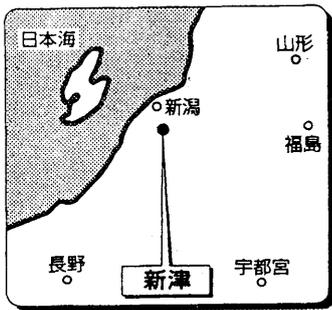
新津は「新しい港」の意。浦原平野中央にあるこの地も、いにしえは海港であったとも言われる。時を経て、大正期以降、信越・羽越・磐越西線が分岐する日本海側有数の「陸路の要衝」「鉄道のまち」として栄えた。

しかし、近年は、中継地としての位置付けも低下。とりわけ、新津を經由しない上越新幹線開業後は、電車で十分の新潟市のベッドタウンとしての性格が強くなった。

そして、国鉄の民営化も相まって、鉄道のまちの看板であった機関区、工場、鉄道学園なども相次いで縮小、廃止されていった。

そんな新津も、鉄道以外に二つの顔を持っている。その一つは「花のまち」。5、6月か

## 拝啓 背景

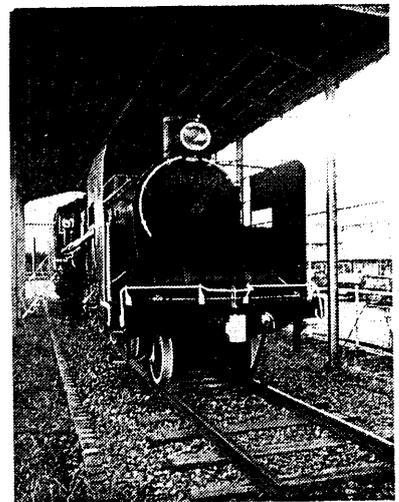


## 新潟県・新津市

### 鉄道のまち復活 夢のせSL走れ

らチューリップの栽培で名高く、花き生産では全国屈指。来月には、同市を通る国道403号沿道は、十七万本のチューリップの満産となる。

もう一つの顔が「石油のまち」。新津油田は明治後半から大正にかけて日本最大の産油量を誇っていた。市では、既に役割を終えた石油掘削施設を産業遺産として保存、整備している。その一つが、一九



(3月5日 産経新聞夕刊より)

九四年に開業したJR東日本新津車両製作所。主に東京圏向けの通勤型・近郊型電車を生産している。矢口弘志計画部長は「JRグループ唯一の車両開発・製造拠点として、さらに技術力を高め、他の車両メーカーに負けない体制を整備したい」と意気高い。

さらに、地域住民の側から、市内の小学校に保存され

ていたSLを復活させようという「C57・1000号を走らせる会」が発足。同会の積極的な運動などもあり、このほどJRはSLの復元を正式に決定、来年春ごろ磐越西線を走行する予定という。

SL復元運動の火付け役でもある鉄道OB会新津支部会長の市村勝栄氏は「SLは鉄道城下町、新津の歴史的文化財。鉄道を愛する市民の熱意が復元運動の大きな力となったのです」と語る。

かつて新津機関区に所属している「SLもまぐち号」をけん引しているC57・1号と1800号の重連走行が見られるかもしれない、と市民の期待は早くも膨らむ。

「鉄道のまち」復活の夢を乗せ、花と緑の越後路にSLの汽笛がこだまするだろう。

### 十字路

復活する。現役復帰を果たすのは「貴婦人」の愛称で

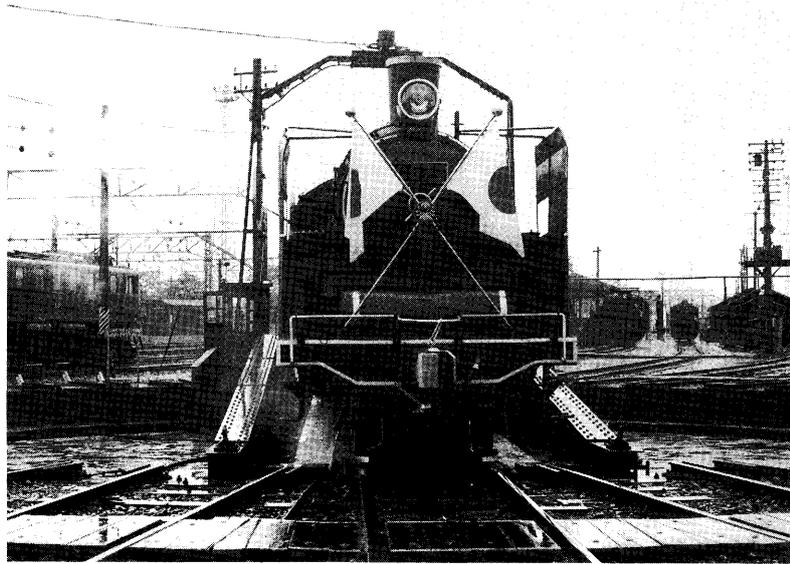
◆：福島県郡山市と新潟県新津市を結ぶJR磐越西線に、SLが

◆：運転開始は、平成十一年春。昭和四十四年九月に引退後、保存されていた新潟県新津市や沿線住民が要望し、JR東日本東北地域本社が保存会、関係自治体などの協力を得て、実現にこぎつけた。

◆：復元経費は約二億円で、JR側と要望団体とで折半。現役時代、地球四十二周分を走ったという貴婦人は、今年九日から現地解体、四月からJR大宮工場などで復元修理に入り、レールの上で再びその華麗な姿を現す。

## 磐越西線にSLが走る

平成11年春から 磐越西線新津駅から鹿瀬町の日出谷駅までSLが走るようになりました。SLとは Steam-Lo-como-tiveの略語 (スチームロコモ) で蒸気機関車のこと。この記事は3月5日付産経新聞夕刊と3月28日付朝日新聞夕刊に掲載されたものです。



表紙説明参照

## 編集後記

四月最後の一週間を村松で過ごした。前日迄、真夏並の暑さだったのに、一転してストーブの要る寒さに変わったり、その一週間の天気は異常だったが、時まさに山菜のシーズンで、久し振りに取り立てのタラの芽、山うど、こごみ等を堪能させてもらった。

田んぼには水が張られはじめ、稲の苗を自転車で積んで行く農夫に出会ったりした。ひ弱そうに微風にさえ揺らぐ苗、植えられたばかりの苗は本当に、か弱気で、真夏には強烈な太陽に耐え、秋には黄金の穂を重そうに実らせるなんて、とても思えない。自然の良さを十分に満喫して東京に戻り、翌日、最終の編集会議のために上野の新潟県人会館へ行く。

大会当日に配布する、この会報誌の最終打ち合わせを終えて雑談に入る。差し入れのお酒で喉を潤している時八木さんが「ここ…県人会館…は本当に良いよ。入り口は暗いんだけど、中に入ると、とても温かい雰囲気を感じさせる。今日も、昼食を食べていたら“喉が乾くでしょう”って、わざわざお茶を持って来てくれるんだよ。こんな、ほのぼのとした良い所は初めてだよ。本当に良いよ」と言う。新潟県人の人柄が自然の温かさを持っているのだろうか。良い気分で会議を終えることが出来ました。  
(深見 記)

平成10年 6月 第25号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 広報部

事務局：〒113-0034 東京都文京区湯島2-30-9 (株)ツルマキ 内

TEL 03-3818-6448 FAX 03-3818-6270

郵便振替 00160-9-26339

# 校歌

## 旧県立村松中学校校歌

1. 塵の巷を遠ざけて  
雲たちまよう白山の  
麓に立てる松の群  
見よ凌霄の気を含む
2. 緑色濃き木陰には  
夏も尽せぬ泉あり  
湧きて流れて末終に  
汪洋として海に入る
3. 落葉をくぐる流れにも  
巖石砕く力あり  
清きは水の姿にて  
強きは誰が心ぞや
4. 万緑の気地に潜み  
風雪野山に荒るる時  
色さえ変えぬ常盤樹の  
高きは誰が操ぞや
5. それ英雄も人傑も  
人の子吾等がたぐいなり  
嗚呼松城の健男兒  
奮いて立つべし諸共に  
嗚呼松城の健男子  
勇みて立つべし諸共に

## 旧村松高等女学校校歌

1. 愛宕の山のむら松の  
みどりの色の常盤なる  
操を胸に日の本の  
をみなの徳を磨かばや
2. 心は身はも真夏なほ  
日に輝ける白山の  
雲にもまさる清さもて  
正しき道を進まばや
3. 其の名も高きこの里の  
桜の花のうらうらと  
のぼる朝日に匂うごと  
気高き姿保たばや

## 現校歌

- 相馬御風 作詞  
中山晋平 作曲
1. 普く照らす天つ日の  
光を浴びて年々に  
伸びてしやまぬ若松の  
ときわの志操いや高く  
学徒われらの在るところ  
明朗の和気みなざり
  2. 見よ質実に清純に  
進取の生氣湧き溢れ  
文化の花の咲くところ  
希望は常に輝ける  
道に我らを進ましむ  
努めなんいざもろともに

# 応援歌

(一)

1. 緑濃き臥龍ヶ丘に  
轟くは我等が歡呼  
若人の高なる血潮  
たたえつつ春の日めぐる
2. いざ叫べ若人の誇り  
わななける力の腕  
見よや君歡喜の胸に  
輝くは永久の勝利

(二)

1. 臥龍原頭幾星霜  
切磋琢磨の功を経て  
花くれないの香に匂う  
誉れは高き松城の  
健児が胸に血やおどる
2. 我等がえらぶますらおの  
誉れは海の湧くがごと  
望みは雲のゆくがごと  
月の桂をなゆずりそ  
栄えある名をぞとこしえに

(三)

1. 松城健児六百が  
祖国の為に剛健の  
大図をここに定めんと  
送りいせし我が勇士  
覇権をゆずることなかれ  
我等六百ここにあり
2. 臥龍原頭精気あり  
義憤に満ちし丈夫が  
驕奢の潮せきとめて  
逸惰の眠り打ち破り  
高うつ胸の雄叫びに  
進めとなるを如何にせん
3. 今壯快の晴れ戦  
見よ雄叫びの只中に  
我等が望み一筋に  
肩にぞかかる勇戦士  
覇権をゆずることなかれ  
我等六百ここにあり



## 青い山脈

作詞 西条八十  
作曲 服部良一

一、若くあかるい 歌声に  
雪崩は消える 花も咲く  
青い山脈 雪割桜  
空のはて  
今日もわれらの 夢をよぶ

二、古い上衣よ さようなら  
さみしい夢よ さようなら  
青い山脈 バラ色雲へ  
あこがれの  
旅の乙女に 鳥も啼く

吉岡校歌二二年止上

作詞 丘灯至夫  
作曲 遠藤実

一、赤い夕陽が 校舎をそめて  
ニレの木陰に はずむ声  
ああ 高校三年生 ぼくら  
離れ離れに なるうとも  
クラスなまは いつまでも

二、残り少ない 日数を胸に  
夢がはばたく 遠い空  
ああ 高校三年生 ぼくら  
道はそれぞれ 別れても  
越えて歌おう この歌を

